

第4回 京都市交響楽団ビジョン（仮称）検討会議 摘録

日時：令和元年11月19日（火） 15：00～16：10

場所：職員会館かもがわ大会議室

【議事】

- (1) 開会挨拶
- (2) 市民意見募集の結果の説明
- (3) 協議
- (4) 連絡事項

【協議記録】

1. 市民意見募集の結果について

- ・ 様々な年代の方から幅広いご意見をいただきました。ビジョンには概ね賛同いただいているように感じ、今後ビジョンの実現に向けて、楽団員・事務局・財団が団結して取り組んでいく。
- ・ 市民からの意見が非常に多く、京都市民は文化に対する関心が高いのだと感じた。また、京響の内部事情をご存知であると伺えるようなご意見も多く、責任を持って様々な取り組みを実行していく必要がある。

2. リーフレットについて

- ・ 黒色を基調としたデザインは格式高い印象を与えるかもしれないが、少し文字が読み辛いと感じる。背景色は明るい色の方が良いのではないか。
- ・ リーフレットに掲載する写真については、楽団員全員が映っている写真が望ましい。

3. 京響が発展するための取組について

① 多様な人材が活用できる環境づくり

- ・ 子育てとの両立が困難なため、女性楽団員が退団されるとの話を伺った。演奏家としての技量と性別は無関係であるため、子育てが大変な時期に女性をサポートできる体制を整えて欲しい。若い女性の音楽家が入りたいと思えるような楽団にするべきである。
- ・ 子供を持つ音楽家は、子育てを終えた深夜の時間帯などの限られた時間を活用して練習をしている。そういった方が安心して所属できる環境を整えるのは、非常に重要である。
- ・ 子育て支援や働き方改革といった社会的な要請にも応える内容であり、今後進めていく必要がある。

② 海外オーケストラ・音楽家との交流

- ・ 日本のオーケストラ全体に関して当てはまる内容だと思うが、外国人の楽団員が少ない。楽団員の国籍が豊かになることは、国際的なオーケストラになるために必要ではないか。

- ・ 賛否ある取り組みかと思うが、YouTube 等を活用したオーディションを実施している楽団も存在する。外国人の楽団員を増やすには、そういった取り組みも必要となる可能性がある。
- ・ 外国人も見ることができる海外オーケストラのオーディションを取りまとめたホームページに、京響のオーディション情報も掲載されているはずだが、なかなか楽団員の獲得まで結びついていない現状がある。
- ・ 外国人を増やす際には、徐々に増やしていくことが望ましい。
- ・ 海外のオーケストラも含め、他のプロオーケストラの奏者を客演奏者として一定回数招き、外の風を入れるべきではないか。
- ・ 京都市は海外の姉妹都市を多く持っている。姉妹都市のオーケストラと交換留学のような取り組みが行えれば、互いの文化や精神を同時に学ぶことができるのではないか。

③ 楽団員の技量・モチベーションの維持向上

- ・ 海外の例になるが、韓国の舞踊の国立劇団では、2年に1回オーディションのような形式で、舞踊の技量を確認している。このような個人の技量を維持するための取り組みは重要ではないか。
- ・ 技量が低下した楽団員をどのように取り扱うかは難しい問題だが、今後も議論が必要である。
- ・ 年齢を重ね、ベテランになると演奏の技量が落ちることはある程度仕方ない部分もあるが、ベテランにはベテランの果たす役割がある。ベテランには伝統を守り、次世代へ継承するという役割があり、中堅には演奏や運営、お客様とのやり取りを実践し、若手は中堅・ベテラン層から音楽に取り組む姿勢等を学びながら、高い技術力の演奏で貢献する。このように、オーケストラにはベテラン、中堅、若手のバランスが重要である。

④ 万全な事務局体制

- ・ 素晴らしいオーケストラには、必ず素晴らしい事務局がついている。楽団員との信頼関係の構築や、人員の確保といった事務局体制の整備を行ってほしい。

⑤ 学生や次世代音楽家の育成

- ・ 京都市立芸術大学から数名の学生が定期演奏会に参加した。全体練習の初日から参加し、楽団員が演奏会に向けてどのような準備をしているか身近に感じるよい機会であったと認識しており、改めて若い力とのコラボレーションの重要性を感じた。
- ・ 次世代音楽家の育成は公的オーケストラにとって重要な使命である。そういった意識をもって今後も取り組んでいくべきである。

⑥ 楽団員の自覚

- ・ 楽団員としての自覚は全員が持つ必要がある。市民・お客さんとの接し方については、楽団員の中でも議論すべきではないか。

- ・ 楽団員にレピュテーションは不可欠な時代である。ステージを降りた後も、演奏会当日だけでも、市民から愛されている楽団員である、という意識を持って帰路について欲しい。

⑦ 定期演奏会の完全二回化

- ・ ビジョンの中で今回修正された「定期演奏会を中核とする」というのは大事な観点である。定期演奏会をしっかりと実施し友の会会員を確実に増やしていくことが楽団発展の礎であり保障である。そのためにも、定期演奏会の完全2回公演化を早期に実施していくことを検討すべきである。ビジョンで掲げた様々な取組を定期の完全2回化と友の会会員の拡大（現在の1400名を2000名に）につなげていくような戦略的な取組が大事である。

以 上